

第 16 回 まちづくり町民会議

2020/8/12 PM7:00

@商工会 2 階

《式次第》 19:00~20:30 (90 分)

- | | | |
|---|--------------|------|
| 1 | 会長あいさつ | 5 分 |
| 2 | グループ発表、進め方説明 | 15 分 |
| 3 | グループ討議 | 65 分 |
| 4 | その他 | 5 分 |
- 次回開催 9 月 17 日 (木)
場所 商工会 2 階

配布資料

・式次第

資料 1 グループ名簿

資料 2 事業施策提案書に基づく施策提案方法

資料 3 事業施策提案書マネジメントシート

資料 4 参考 事業施策提案書

第 6 次知名町総合振興計画書



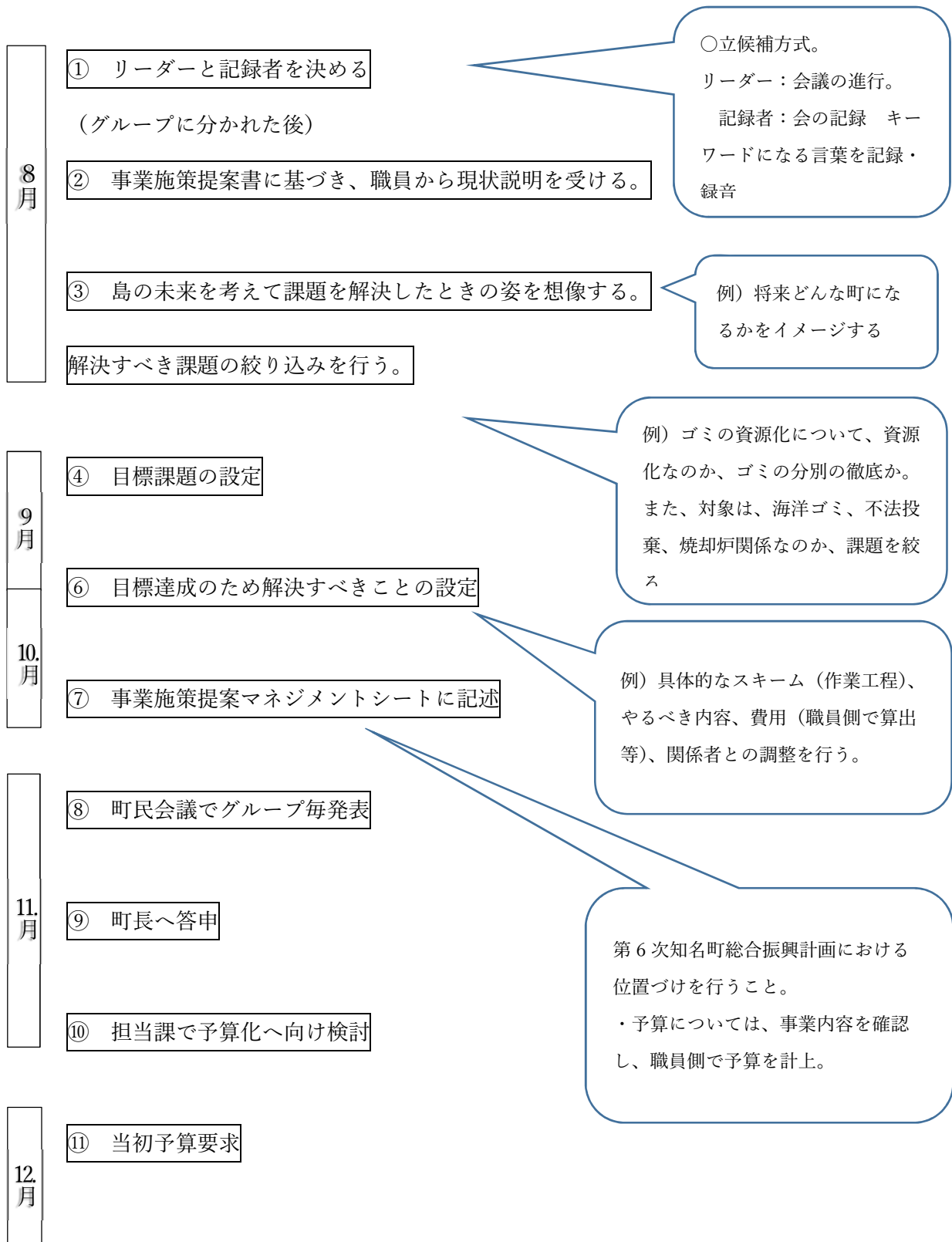
【お願い】

現在、町民会議の開催についてハガキ等でお知らせしていますが、スマートフォンの LINE アプリを使用している方は、左の QR コードを読み込んで登録をお願いします。

会議開催の出欠報告もできますので、よろしくお願いします。

資料 2

§ 事業施策提案書に基づく施策提案方法



番号 未来 -

事業施策提案書

未来型 「将来こんな知名町に住みたい」や、「子や孫に誇れる知名町になるためには」

事業名	生ごみ等の再資源化への取り組み						
提案者・提案 団体名							
町民会議にて「まちづくり」意見 フォアキャストとバックキャストをまとめて見えた課題部分該当箇所							
	ブランド化			ゴミ		住宅	結
	労働力・担い手			健康対策		雇用	

1 「将来こんな知名町に住みたい」や、「子や孫に誇れる知名町になるためには」のイメージ

家庭や事業所から出される生ごみを分別・回収し、生ごみの焼却量の減量とリサイクルした生ごみで堆肥を作り地域に無償還元または、知名町ブランド堆肥として販売する。

(鹿児島県日置市が2015年から、ゴミステーションに生ごみ回収容器を設置し開始)

次の段階では、紙屑等の可燃物もリサイクル物品として回収し、廃品業者へ販売する。

更に、将来的には、使用済み紙おむつの再資源化にも取り組む。(ユニチャームが技術開発済みで、志布志市、大崎町と協定を結び実証試験中で、2020年の本格事業化を目指している。)

環境に優しい再資源化に積極的に取り組み、「リサイクル先進の町」を実現することが、「子や孫つまり未来に誇れる故郷」づくりであると考えている。

2 そのためには何をするか

① 個人がすること

積極的な協力と地域(集落内)の環境づくり

② 団体ですること

各種団体毎(町単位)及び知名町コミュニティー推進会議の理解と協力

③ 行政がすること

ア 和泊町との協議

イ 住民説明会

ウ 取り組み方法の検討(モニター方式、地域限定実施等)

エ 実証試験

3 その他

■確認事項

①単なる要望になっていないか。

②現実性を加味しているか。

③見えてきた課題となっているか

④宗教・政治又は選挙活動を目的とはしていないか。

事業施策提案書

従来型 町が実施している事業で、町民との温度差がある事業

町が実施している事業名	空き家等対策事業費
提案者・提案団体名	

1 住民との温度差がある内容 (具体的にどの部分に課題があるか)

①背景

お店を閉業したい方が、時々、商工会を訪問して来るが、閉業したい方にとって、情報提供の場が少ないという気がする。

②課題(温度差部分)

所有者が誰なのか、おぼろしい空き家や空き店舗が多くある。
住民の方々に、広く情報提供するべき。

2 どのような改善が考えられるか。

①対象者

住民及びイターン者等。

②費用等

空き家及び空き店舗を掲示する看板費 約4~5万円

③改善するにあたり、住民としては何を協力できるか

住民としては、役場へ、チラシを配り、転出届を提出し、残った物件に因り有効活用を促せるべき。

3 改善にあつたつての課題

町内に不動産屋が少ないので、代替的な役割を担う機関が必要に感じる。また、友人及び知人、近い職場関係者等の伝手が無いと、住まいが見つからないケースがある。

4 見込まれる効果

(利用者数や、成果見込み)

看板掲示や、紹介する機関があることで、多少の居住率の増加が見込める効果を期待できると思われる。

5 その他

商工会に関する事業が少ないという気がする。

■確認事項

- ①単なる要望になっていないか。
- ②現実性を加味しているか。
- ③温度差のみの指摘にせず、提案形式となっているか。
- ④営利を主とする目的になっていないか。
- ⑤宗教・政治又は選挙活動を目的とはしていないか。
- ⑥国・県事業で実施しているが、新たに町単独事業で実施したほうがいい事業は、特にその必要性を記入すること。

グループ2 空き家等対策事業

番号 従来 -

事業施策提案書

従来型 町が実施している事業で、町民との温度差がある事業

町が実施している事業名	新 移住支援
提案者・提案団体名	

- 1 住民との温度差がある内容
(具体的にどの部分に課題があるか)

①背景

空き家が多いが、条件に合う住宅がなかなか出ていない。
★仕事もなかなか見つからない。★農地の個人的借り入れ難しい。
だから移住を決断しにくい。

②課題(温度差部分)

島内の空き住宅・アパート等の物件をまとめて
総合的に紹介していただける場があれば。

- 2 どのような改善が考えられるか。

移住者の不安を解消していく体制づくり

①対象者

移住者

②費用等

空き住宅の改装費用。 ~~装飾費~~

- ③改善するにあたり、住民としては何を協力できるか

住み良い島であることをアピールする。

- 3 改善にあったっての課題

・ 空き住宅を提供していただける方が少ない。

- 4 見込まれる効果

(利用者数や、成果見込み)

・ 移住者が増える。

- 5 その他

■確認事項

- ①単なる要望になっていないか。
- ②現実性を加味しているか。
- ③温度差のみの指摘にならず、提案形式となっているか。
- ④営利を主とする目的になっていないか。
- ⑤宗教・政治又は選挙活動を目的とはしていないか。
- ⑥国・県事業で実施しているが、新たに町単独事業で実施したほうがいい事業は、特にその必要性を記入すること。

グループ3 子育て支援

番号 従来 -

事業施策提案書

従来型 町が実施している事業で、町民との温度差がある事業

町が実施している事業名	子育て支援
提案者・提案団体名	

- 1 住民との温度差がある内容
(具体的にどの部分に課題があるか)

①背景 和泊町と比婆 子育て支援金が年厚く、助かるが、医療費助成がいっぱい、不公平感を感じる。雨の日も集める場やイベント企画がほしい。オムツ等の助成制度を利用するための手続きがわずらわしい。

- ②課題 (温度差部分)

① 小さな島の2つの町間で差があるのがおかしい。

- 2 どのような改善が考えられるか。

- ①対象者

子育て世代

- ②費用等

制度の見直しに必要な金額

- ③改善するにあたり、住民としては何を協力できるか

思いが伝えられる場がほしい。企画等への積極的参加。

- 3 改善にあつたっての課題

~~予算~~

各町で独自の取組がありあってもよいが、差がありすぎてもダメ。金銭的なものは、イベント企画はリーダー的存在が必要。

- 4 見込まれる効果

(利用者数や、成果見込み)

平等感、安心感、充実感。

- 5 その他

■確認事項

- ①単なる要望になっていないか。
- ②現実性を加味しているか。
- ③温度差のみの指摘にならず、提案形式となっているか。
- ④営利を主とする目的になっていないか。
- ⑤宗教・政治又は選挙活動を目的とはしていないか。
- ⑥国・県事業で実施しているが、新たに町単独事業で実施したほうがいい事業は、特にその必要性を記入すること。

グループ4 新規就農者支援、高齢者介護の為早期退職

事業施策提案書

未来型

事業名 高反収作物の導入

1. 働く場所少ない島に U ターン I ターンを増やしたい



専業、副業的にできる農家の育成 ⇔ 農地が足りない

特に本町に於いてはサトウキビを主体に

土地利用型農業が盛んです



農地の分配(農業委員会の機能充実) ⇔ ⇔ 高反収作物への移行

2. 何をするか

- ① 新規参入者の方々に、技術の伝授

各種研修会への呼びかけ(4HC、JA 青壮年部、JA 野菜女性部会、普及課の執り行う研修会)

- ② 農業委員会の機能充実 ⇔ 遊休地の把握、新規就農者優先の借地斡旋

JA ⇔ 高反収作物導入研究 早期導入

- ③ 耕作放棄地など 状態の悪い圃地の開墾 改良資金の助成

農林課 ⇔ JA と共に 高反収作物導入研究 早期導入

新規就農者の設備投資に対する助成

グループ4 新規就農者支援、高齢者介護の為早期退職

事業施策提案書

未来型

事業名 新規就農者支援事業 ☆高齢者介護のため早期退職 就農者の支援

1. 介護帰島者が働ける環境作り

高齢化が進むなか、親御さんの介護のため、早期に退職帰島し、介護の傍ら

就農される方も少なくない。しかしながら、親御さんの高齢化に伴い、農業機械

施設等の更新はなされておらず、再就農の際 多大な投資が必要となっています。

現在 新規就農者支援事業として、農業次世代人材投資事業(青年給付金)があります。

今年から 対象年齢が50歳までと引き上げられましたが、年齢的に対象とならない就農者もおられます。今後もこの様な帰島者が増えていくと考えられます。介護帰島者の

働ける環境作りに支援を求めます。

2. 何をするか

① 新規参入者の方々に、技術の伝授

各種研修会への呼びかけ(4HC、JA 青壮年部、JA 野菜女性部会、普及課の執り行う研修会)

② 農業委員会の機能充実 ⇨ 遊休地の把握、新規就農者優先の借地斡旋

JA ⇨ 高反収作物導入研究 早期導入

③ 耕作放棄地など 状態の悪い甫地の開墾 改良資金の助成

農林課 ⇨ JA と共に 高反収作物導入研究 早期導入

新規就農者(50歳以上での就農者、介護帰島者)の設備投資に対する助成

グループ4 新規就農者支援、高齢者介護の為早期退職

番号 未来 -

事業施策提案書

未来型 「将来こんな知名町に住みたい」や、「子や孫に誇れる知名町になるためには」

事業名	農業研修制度の導入						
提案者・提案 団体名							
町民会議にて「まちづくり」意見 フォアキャストとバックキャストをまとめて見えた課題部分該当箇所							
	ブランド化		ゴミ		住宅		結
Q	労働力・担い手		健康対策		雇用		

1 「将来こんな知名町に住みたい」や、「子や孫に誇れる知名町になるためには」のイメージ

町議員が視察した志布志市の公社が行なっている新規就農者(作物はピーマン)への研修制度を取り入れて、島内での研修制度を確立させ担い手の育成と経営拡大を図る。

2 そのためには何をするか

① 個人がすること

研修の受け入れができる体制を作る。(宿泊施設・通年従事計画等)
地域の農家との交流を促す。

② 団体ですること

受け入れた所以外もバックアップし情報交換を行う。
増

③ 行政がすること

受け入れの窓口となって、振興会とのパイプ役としてマッチアップをする。
管農指導員と相対し、独立後の裁判・販売技術のバックアップをする。
培

3 その他

■確認事項

- ①単なる要望になっていないか。
- ②現実性を加味しているか。
- ③見えてきた課題となっているか
- ④宗教・政治又は選挙活動を目的とはしていないか。